

# 計画・交通研究会

Association for Planning and Transportation Studies

## 会報

## 2006-3

発行日：平成18年3月8日

発行元：計画・交通研究会

〒102-0083

東京都千代田区麹町5-2-1 K-WING 6F

TEL=03-3265-1774 FAX=03-3221-5489

Homepage =www.keikaku-kotsu.org/

### 目次

Opinion .....	1-2
マルチモーダルな都市をめざして	
News Letters .....	2-5
2006年2月 定例研究会 計交研・当て塾共催セミナー	
Announcement .....	5-6
2006年3月 定例研究会 2006年3月日本橋エリア視察会 第28回通常総会、懇親会 計交研・当て塾共催セミナー	
Backyard .....	7
事務局通信	

## □ Opinion マルチモーダルな都市をめざして 中村文彦

マルチモーダルという表現は、ここでは、その英語の本来の意味に戻り、多様な交通手段が選択可能という意味とする。類似の単語で、インターモーダルという言葉は、これも英語の本来の意味に戻るならば、交通手段同士が結節していることとする。さて、マルチモーダルな都市とは、都市内での移動に際して、複数の移動方法の選択肢があること、具体的には、自家用車以外の選択肢が選択肢たりえて存在している都市ということになる。環境問題を引き合いに出すまでもなく、高齢化がより進展するこれからの都市において、自家用車でしか移動できない環境のままでもいいというシナリオは、受け入れられにくい。

さて、ここで、選択肢たりえるということの意味が問題となる。ごく短距離であれば、徒歩や自転車、もう少し距離が延びれば、バスなどの公共交通が、移動する個人あるいは集団にとって、選択肢となっているかどうか。逆に言うならば、短距離で、誰もが歩こう、あるいは自転車で行こうと思われない街、少し長い距離で、バスで行こうと思いつく人がいない街になっていないか。道路がある、あるいはバス路線があるのだから、あとは個人の問題というのでは済まされまい。しかしな

がら、地方都市で、あるいは大都市の郊外部で、上記のような意味で、マルチモーダルにはほど遠い状況が少なからずあると考えられる。これを打破するための課題を整理する。

第一に、打破する施策群を立案する主体としての地方自治体の重要性である。道路整備はままだしも、バスになると自治体の主導性はきわめて弱い。このあたりが欧米と大きく異なるところで、事業者と自治体の役割の構図は見直される必要がある。地域の利便性や、都市計画上の他の条件と勘案させて、交通のあるべき体系を描き、その中にバス路線を位置づけるところまでは、行政が主導的に行うことであり、事業者はその定められたサービス内容を安全にかつ効率的に行うところに、より能力を発揮すべきであろう。行政は、子供だましのようなコミュニティバス路線を1路線設定して、バス交通に行政も関与しているというポーズをとるレベルではなく、都市全体を見据えて実行可能な戦略を打ち出す必要がある。

第二に、交通システムとしての質の高さである。歩道幅員をきちんととるべき道路で確保できているか、歩行者など期待できないバイパスの歩道ばかりが拡幅されていないか、という観点から地区全体で道路空間の再配分

を考へて幅員構成を見直すべきところも少なくない。自転車については、利用者側のマナーやルール、運転技術において、欧州とわが国では大きな差があるにせよ、交通計画として、どのように日常生活に自転車を使ってほしいと考へているのか、市民へのメッセージの発信がなく、提案にも実現した街にもそれがない。道路管理と交通管理の狭間で多くの課題があるが、明確な姿勢を打ち出すことが最初の一步である。バスについては、運賃や頻度が需要予測値だけで決定されているとすれば、そこに問題がある。先と同様に言うなら、どういふ生活をしてほしいから、どういふ運賃と頻度にすべきか、という議論と、それを経営的に成立させるためには、という議論を区別し、妥協点を見つけていく必要があるが、前者の部分が端折られてはならない。

第三に、都市活動との関連性である。これは、第一、第二の部分がきちんと展開されていれば、自ずと考へられるところである。土地利用と交通の整合という一言で済めばよいが、施設立地の際に、施設利用者のアクセス費用をどこまで考へて立地が選定されてい

るか、環境政策や福祉政策と整合させることで節約できる費用をどこまで盛り込んで、交通システム整備の戦略を立案していくか、具体的場面では多くの課題が残されている。さらに定住ということ考へるならば、市民に住み続けてもらうための動機付けとして交通システムをどう位置づけるかという戦略性も必要になろう。

そして最後には、情報の提供である。わかりやすい情報の提供に腐心して、最新の情報通信技術も多用した各種の提案がなされていて、わが国は、その最先端に位置づけられている。しかしながら、使いにくい電器製品の説明書が分厚くなるのと同様に、わかりにくい交通網だから情報提供量が増える、というのではまずい。まずは交通システムが使いやすいことが前提である。例えば、バス路線網がわかりやすく、使いやすいければ、情報提供すべき項目はかなり限定できる。その上で、多くの先行研究にみられるような、情報提供の技術が、実際に普及していくことが望まれる。

(計画・交通研究会正会員／横浜国立大学  
大学院教授)

## □ News Letters

## 事業報告・活動報告 □

### ■2006年2月定例研究会

#### (土木学会CPDプログラム認定)

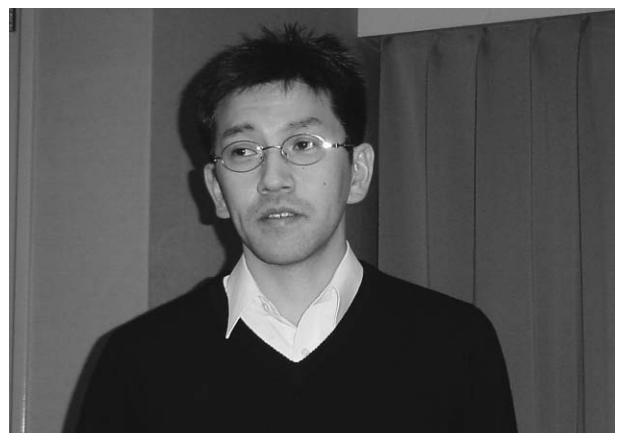
- 日時：平成18年2月1日(水)16:00～18:00
- 場所：計画・交通研究会会議室
- 講師：東京電機大学 理工学部  
助教授 高田和幸
- 司会：東京海洋大学 助教授 兵藤哲朗
- 演題：オランダの新しい交通運輸政策について

#### 【講演概要】

講演は、1. オランダの風土と国土、2. オランダの道路交通事情、3. オランダの国土空間計画および運輸・交通計画の変遷、4. 新たな運輸・交通政策 (Nota Mobiliteit)、5.

新たな道路運用方策、の5項目であった。

「オランダの風土と国土」の中では、写真を交えてオランダの風景やインフラが紹介され



▲高田和幸助教授

(写真一1)、非常に美しい国土、デザインされたインフラが構築されていることが報告された。「オランダの道路交通事情」の中では、オランダの自動車交通の実態と、ハイウェイネットワークの構築状況が紹介され、ハイウェイの骨格は90年代に形成されており、現在は混雑のひどい道路区間の拡幅工事や、メンテナンスが主に行われていることが報告された。「オランダの国土空間計画および運輸・交通計画の変遷」では、国土空間計画と運輸・交通計画の変遷、これらの計画間の関係、中央政府、12州、7つの都市圏連合、および各地方自治体の計画にどのように関わっているのかが紹介された。「新たな運輸・交通政策 (Nota Mobiliteit)」では、新たな国土空間計画「Nota Ruimte」と整合する形で策定が進んでいる長期の交通・運輸計画が紹介され、「交通サービスの信頼性の向上」、「できる限りの地方分権化」、「PPPの促進」、「道路利用課金制度の検討」、「安全性の一層の改善」、「航空機のアクセシビリティの維持」などが整備目標



写真一1



写真一2

に挙げられているとの報告があった。「新たな道路運用方策」の中では、日本では実施されていない道路運用の方策が紹介され、ハイウェイの特定区間上の走行速度を80kmに制限し(写真一2)、交通容量を最大化して周辺への環境負荷を最小化する試み、路肩車線を混雑時に走行車線として利用する「ピーク・タイム・レーン」の設置、混雑時にハイウェイにバス専用レーンを設けるなど、ユニークな道路運用が図られていることが報告された。

なお発表後には、参加者間で、オランダの国土計画、交通計画についての意見交換が積極的に行われた。

## ■2006年1月 計交研・当て塾共催セミナー (第V講・第15回)

●日時：平成18年1月18日(水)17:00～19:00

●場所：計画・交通研究会会議室

●講師・演題

「当て塾」塾長 鈴木 忠義

観光学入門の細目次への試み：目次案

●参加者：18名（うち計交研関係6名）

### 〔講義概要〕

#### ◆観光学入門◆（目次案）

本セミナーでは、人間にとって観光とは何かという問いを基本に、第4章までの再整理を主な狙いとして進めてきた。“人がなぜ旅をするのか”から始めて、旅－旅行－汎観光へと拡大することを示し、三つの主体（観光者、受地の人々、業者・専門家等）のそれぞれにとっての汎観光の意義と役割を明確にしようとするものである。

現段階での目次案を以下に示したが、第5章からの具体的な事項に関しては、来年度のセミナーでさらに深めていきたい。

#### 第1章 人はなぜ旅をするのか

- 1.1 人間－文明を持った生き物
- 1.2 人間は意味（価値）を糧として生きている動物
- 1.3 人はなぜ自然を求めるのか

1.4	文学と観光
1.5	認知科学と観光
1.6	人はなぜ旅をするのか (章の結論)
第2章	日本の旅人・世界の旅人
2.1	旅人に学ぶ (日本人・外国人各10人)
2.2	旅人の系譜
第3章	汎観光とは
3.1	旅の6つの分類
3.2	旅ー旅行ー汎観光へ
第4章	汎観光の意義と役割
4.1	汎観光における三つの主体
4.2	各主体の目的と意義
4.3	主体相互の連携
第5章	観光行動論
5.1	観光行動とは
5.2	観光行動の分類
5.3	観光行動特性
5.4	観光対象と行動特性
5.5	観光資源
5.6	観光行動の特性要素
5.7	人間の観光志向ーその不易流行
第6章	観光の産業構造
6.1	観光の成立と産業・企業のかかわり
6.2	観光のための産業の種類・観光の関連産業
6.3	関連学問分野の開発と期待
6.4	観光の仕事
第7章	観光の政治・経済・社会
7.1	関係する政治・経済・社会の分野
7.2	汎観光と政治・行政
7.3	汎観光と経済
7.4	汎観光と社会
第8章	観光と地域づくり・まち(観光地)づくり
8.1	づくりの手順と企画計画
8.2	づくりの大きな評価項目
8.3	づくりの構造
8.4	づくりのねらい
8.5	望ましい施策
第9章	観光の未来
9.1	人間にとって観光とは
9.2	それを可能にする条件である文明の未来

9.3 戦後の日本の観光を辿ればその論理は十分ではないが理解できる

9.4 世界の国々と観光

9.5 その時、観光資源の保護と開発 (世界遺産と汎観光)

9.6 予言的結論

## 第10章 観光の学習・研究

10.1 観光者の学習

10.2 観光行政

10.3 観光企業の学習と研究

10.4 文献とその整理

(文責:「当て塾」事務局 野倉 淳)

## ■2006年2月 計交研・当て塾共催セミナー (第V講・第16回)

●日時:平成18年2月15日(水)17:00~19:00

●場所:計画・交通研究会会議室

●講師・演題

①「当て塾」塾長 鈴木 忠義

観光学入門の細目次への試み:第8章

②UR都市機構・多摩事業本部 横山 陽

明日の多摩ニュータウン

●参加者:13名(うち計交研関係3名)

[講義概要]

◆観光学入門◆ (①鈴木忠義)

[第8章の関連:美しいみちへの手法体系]

前回の目次案の第8章のうち、移動について深化する。

観光学入門の「第8章 地域づくり・まち(観光地)づくり」の基本として、移動についての体系の一案を示した。

観光の成立は、観光者の空間での移動と滞留と廻遊(元に戻る)である。このとき、単に目的地のみではなく、その移動における経過と経過地も興味対象に大きく影響する。それらを踏まえて、以下の体系の素案を示した。

なお、広義の移動手段を「みち」と表現した。(水上のみち、陸のみち、地下のみち、空のみち)

## 1. みちの立地系

農業地域、林業地域、工業地域  
水辺地域、山岳地域、都市地域

## 2. 陸路の路線系

◇用語：道路と街路、路線・路肩・路側・路傍・借景、点－線－面

◇景観：内景観、外景観、展望景観、借景、遠景、中景、近景

◇環境：環境施設帯

## 3. 道路の施設係

交差点、インターチェンジ、ジャンクション、法面、給排水路、消火栓、遮音壁、ガードレール、取付道路、誘導路（施設への）、歓送迎路、ガイド、標識、信号 等

## 4. 地点・施設系

◇地点：大型駐車場（平面・立体）、S.A.、P.A.、B.S.、ターミナル、乗換地点、鉄道、空港、海港、エレベーター、給排水等

◇施設系（外構）：堀・空堀、囲い、柵、擁壁、照明、玄関、前庭、窓辺 等

## 5. 地域・地区の施設系

建物のファサードと前庭、集合住宅、公共空地（路線・路肩・路側・路傍・借景）、戸建住宅、文化施設、土地、その他

## 6. 設備系（通常の機能）

野外家具、ベンチ、屑籠、公衆トイレ、排水溝、排水孔、マンホール、消火栓、配電盤

## 7. 楽しい道／自然をつくる・自然を守る・自然を利用する

◇生活道路系：グリーンコンタクト、語らいのみち、玄関から、和みのみち、楽しい散歩道、身近な自然、創る楽しみ、育つみち 等

◇街路（市街）系：イベント、街角でおしゃべり、街を楽しむ、夜を楽しく、電飾、ライトアップ、季節を詩う 等

◇街道（田園・中山間地・山岳）系  
先人との対話、巡礼を思うみち、歴史のあるみち、ドラマのあるみち 等

## 8. 植栽はみちをアート化すること

コンテナ・ガーデン、電飾、柵の植栽、橋のパラペット、橋詰広場、法面・階段の植栽、雪吊・雪囲、中央分離帯、並木、古木の保護

## ◆事例報告◆（②②横山 陽）

着手から約40年を経た多摩ニュータウンの特徴と今後のビジョン、及び地区内のお薦めの場所についての解説であった。

### 〔報告の構成〕

#### 1. 多摩ニュータウンの三つの特長

- (1) 面積が広い
- (2) 多様な事業主体
- (3) 時間をかけた街づくり

#### 2. 多摩ニュータウンの明日に向けて

#### 3. 多摩ニュータウン・いちおしスポット

（文責：「当て塾」事務局 野倉 淳）

## □ Announcement

## 研究会・催事の御案内 □

### ■2006年3月定例研究会

（土木学会CPDプログラム認定）

- 日時：平成18年3月22日(水)17:30～19:30
- 会場：計画・交通研究会
- 題目：過疎地域のバス交通計画の再考―何に着目した計画が必要か？―

### 〔報告概要〕

地方部や過疎地域においては、住民ニーズにあったバス交通計画が当然のように行われている。しかし、人々が形成するニーズは、従来のバスサービスの水準という環境そのものに影響を受けており、ニーズを無条件に計

画の基礎とすることには倫理的な問題が生じうる。本発表では、その問題に焦点を当て、何に基づいて計画を立案することが適切なのか、そのためにはどのような道具立てが必要かについて議論する。

●講師：谷本圭志 鳥取大学工学部社会開発システム工学科 助教授

○講師略歴：

1995年：京都大学大学院交通土木工学専攻修了、三菱総合研究所入社

1998年：同退社、鳥取大学工学部社会開発システム工学科助手

2001年：鳥取大学工学部社会開発システム工学科助教授

2002年：土木学会土木計画学研究委員会 規制緩和後におけるバスサービスに関する研究小委員会 幹事

2005年：同 生活交通サービス研究小委員会 幹事

●司会：東京大学 教授 上田孝行

### ■2006年3月日本橋エリア視察会

●日時：平成18年3月31日（金）

視察会 13：30～17：00

懇親会 17：00～19：00

●集合場所：コレド日本橋5Fエレベーターホール（早稲田大学日本橋校前）

●集合時間：13：30厳守

場所はホームページ

<http://www.coredo.jp/access/index.html>

●参加費：無料

●行程：

13：30～14：30 コレド・日本橋室町地区・越後屋ステーション等の説明、コレド内視察

14：30 コレド出発

14：30～15：10 日本橋・日本橋室町地区・越後屋ステーション等視察

15：10 日本橋三井タワー着

15：10～16：10 ジオラマによる説明、館内視察

16：10～17：00 三井記念美術館（重要文化財「三井本館」内）自由見学

17：00～19：00 懇親会（場所未定）

※参加者数が多い場合はグループを分けるため、視察順序が変わることがあります。

※視察箇所等については、一部変更もごさいます。

◎詳細は18.2.10文書にてご案内済。

### ■第28回通常総会、懇親会

●日時：平成18年4月25日（火）

総会 18：00～19：30

懇親会 19：30～20：30

●場所：於 プラザエフ（主婦会館）

●総会予定議案

第1号議案 平成17年度事業報告および収支決算に関する件。

第2号議案 平成18年度事業計画および収支予算に関する件。

第3号議案 任期満了に伴う役員の改選その他

◎詳細は既に18.2.10文書にてご連絡済。

### ■2006年4-6月計交研・当て塾共催セミナー 予定

●4月19日（水）

●5月10日（水）

●5月24日（水）

●6月14日（水）

●6月28日（水）

◎場所・時間はいずれも計画・交通研究会会議室 17時～

詳細は追ってご案内。

## ■ 会議室等の御利用について

当研究会の会議室、応接室をご利用下さい。

定例研究会や個別研究会の開催時以外は部屋が空いています。会員の皆様はお気軽にご利用下さい。個別研究会等で会議室を御利用になる場合は、取りあえずお電話を下さい。

会議用にはOHP、スライド(Kodak)、液晶プロジェクター (APTi) が有ります。

個別に利用できるデスクがあります。貸し出し用ノート型パソコン (IBM Think Pad)、FAX、電話、コピー、E-mailもご利用いただけます。

なお、会議室は現在利用率が非常に低い状況にあります。どうぞ、お気軽に御利用ください。(別途ホームページにて部屋の空き状況がわかり、申込みも容易にできるようなシステムを検討中)

## ■ 個別懇談会のお申し込み

会員各位個別の研究やプロジェクト等につきまして、当会のフェロー会員・個人会員(地域的にも研究部門の面でも多彩な教授・助教授がおられます。既送の会員名簿を御参照下さい)が個別に御相談・懇談に応じます。ご希望により日時を調整しますので、事務局まで遠慮なくご相談下さい。出来れば具体的な研究課題・プロジェクト内容と、希望されるフェロー会員・個人会員のお名前をご連絡下さい。

## ■ 原稿の募集

会報に掲載する下記の原稿を募集します。

- ・ **Publication/Documents** : 刊行物・文献資料。
- ・ **Announcement** : 研究会・催事の御案内  
会員による講演会等の御案内も随時掲載し

ます。日時・会場・事務局等を明記願います。

・ **Report** : 報告

海外研修報告、国際会議参加報告等

● 原稿執筆上のご注意

① 原稿のテキストファイルを電子メール(推奨。本文挿入または添付ファイルで)あるいは3.5インチのフロッピーディスクでお送り下さい。ワードプロセッサを使用される場合は、MS-Word形式もしくは一太郎形式で文書ファイルを保存して下さい。ようお願いいたします。

② 編集の都合上、400字を1単位としてその整数倍(上限4単位=1ページ分:表題・図表を含む)になるように調整して下さい。2ページ以上に及ぶ場合は御相談下さい。

③ 写真を使用される場合は、プリントされたものを郵送願います。

④ 締め切りは偶数月の15日(必着)です。

## ■ ホームページの刷新

ホームページを刷新しました。まだ不十分なところもありますが、逐次改善してまいります。ご意見をいただければ幸いです。

新アドレスは

<http://www.keikaku-kotsu.org/>

## ■ 銀行名の変更連絡

当会の取引銀行である東京三菱銀行がUFJ銀行との合併に伴い2006.1.1から下記のように変更されました。会費等のお振込の際はご留意をお願い致します。なお、口座番号・口座名義等は変更ありません。

【変更後】三菱東京UFJ銀行 麹町中央支店

【変更前】東京三菱銀行 麹町支店

計画・交通研究会

会長 黒川 洸  
副会長 森地 茂  
副会長 石田 東生  
事務局長 清水 英範  
会報編集委員長 藤井 聡  
会報編集責任者 橋本 昭夫

〒102-0083

東京都千代田区麹町5-2-1 K-WING 6F

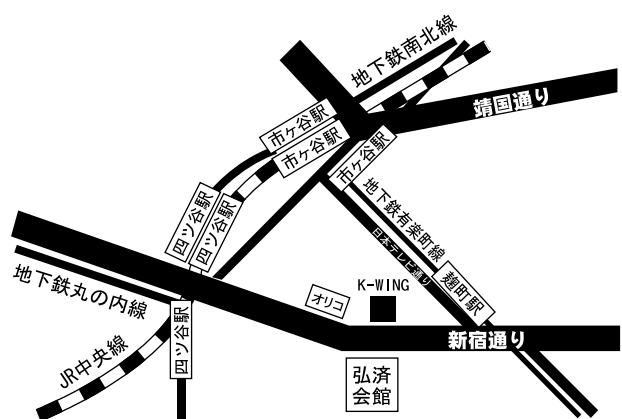
TEL=03-3265-1774

FAX=03-3221-5489

Homepage =

(新) <http://www.keikaku-kotsu.org/>

(旧) <http://www008.upp.so-net.ne.jp/keikaku-kotsu/>



計画・交通研究会案内図

交通

JR中央線四谷駅麹町口から徒歩6分/地下鉄丸の内線四谷駅徒歩6分/南北線四谷駅徒歩7分/有楽町線麹町駅4番出口より4分

弘済会館前の大きなビル（オリコ）の右隣、1階にドラッグストア（クスリ）の入った小さなビル。